

○令和3年度 教育事業

「北海道青少年教育施設職員研修」(R3.5. 27 (土)) ※オンライン開催

令和3年度北海道青少年教育施設協議会
総会及び所長研究協議会兼青少年教育施設職員研修開催要項

- 趣 旨
北海道青少年教育施設協議会加盟施設の長が一堂に会して、施設の教育機能を高めるとともに、青少年教育活動を推進する方策についての理解を深める。
また、青少年教育施設に勤務する職員のスキルアップを図るとともに、施設運営の課題について情報交流を図り課題解決の一助とする。
- 主 催
北海道青少年教育施設協議会
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家
- 後 援
北海道教育委員会
- 期 日
令和3年5月27日(木)
- 会 場
各加盟施設内 (web環境が整う場所)
※国立大雪青少年交流の家よりオンラインで配信します
- 参加者
【総会・所長研究協議会】 北海道青少年教育施設協議会に加盟している施設の長
【教育施設職員研修】 勤務年数5年未満の青少年教育施設職員
- 日程及び内容
13:00~14:00 令和3年度北海道青少年教育施設協議会総会
【議案】 ・令和2年度事業報告について
・令和2年度収支決算報告について
・令和2年度監査報告について
・令和3年度事業計画(案)について
・令和3年度収支予算(案)について
・その他
14:00~14:50 所長研究協議会
「我が国における青少年の体験活動推進施策について」(30分)
(国立大雪青少年交流の家 藤井 玄 所長)
「北海道教育委員会からの情報提供」(20分)
(北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課 担当官)
15:00~16:30 青少年教育施設職員研修
(国立日高青少年自然の家 中田 和彦 所長)
「青少年教育施設の役割」(30分)
「ワークショップ」(60分)

◆目的

- (1)北海道青少年教育施設協議会加盟施設めるとともに、青少年教育活動を推進する方策についての理解を深める。
また、青少年教育施設に勤務する職員のスキルアップを図るとともに、施設運営の課題について情報交流を図り課題解決の一助とする。

◆参加実績

1. 施設区分内訳:
国立施設職員:12名
道立施設職員:19名
市立施設職員:5名
- 2 男女比:男性 26 人 女性 9 人

◆プログラム

① 青少年教育施設の役割 (30分)

- ・社会教育法を元に、青少年教育施設の役割を確認した。また、現在の青少年教育施設を取り巻く社会的状況も確認した。
- ・施設運営や事業運営の基礎について学んだ。

② ワークショップ (60分)

- ・青少年教育施設職員として働く際の心構えなどを考える。
(利用者にどんなことを言われるとうれしいだろうか。など)

◆事業運営・企画のポイント

○各施設職員の交流の場となるようにする。

ブレイクアウトルームに分かれて話し合いを行う際は、他施設同士の交流ができるように運営を行った。

◆参加者の声

□オンラインで開催ではあっても、他の施設と交流する良い機会となった。

□ブレイクアウトルームを活用した学習が効果的だった。

□各施設との情報共有や、知識を深めるために、月一回程度など定期的開催したい。

◆事業の成果と課題

- ① 今回の研修のように現場に近い、実践的なテーマで再度お願いいたします。大変理解しやすかったです
- ② 野外活動や冬季のアクティビティーなど、各施設の予定などを交流する場を設けると、さらに施設間の関係作りができる。
- ③ 各施設の紹介。ビデオ中継のような形で、館内の様子や体験活動の様子が知れると面白いかと。他施設での、コロナ禍における施設管理の工夫などが知りたい。なかなか行くことができない距離が離れている施設がどんなところか知りたい。